

経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)について

PEG(ペグ)とは、口から食べたり飲んだりできない人や、栄養を補助する必要がある人のために、内視鏡を使ってお腹に小さな穴を造る手術の事です。当院では、安全・安心医療の観点から、ダイレクト法によるPEGを新たに導入しました。

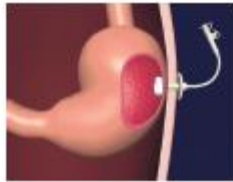
PEG(ペグ)

Percutaneous 経皮
Endoscopic 内視鏡的
Gastrostomy 胃ろう造設術



【PEGの術式】

- プル法
- ダイレクト法



術式別特徴のまとめ

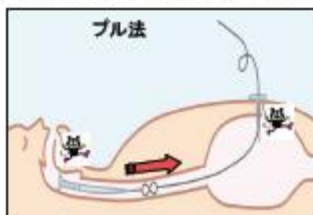
	プル法	ダイレクト法
カテーテル太さ	太い (20Fr)	より太い (24Fr)
内視鏡挿入回数	2回	1回
カテーテルの咽頭通過	あり	なし
感染予防	やや難しい	可能
胃壁固定	なし	あり

ダイレクト法の利点

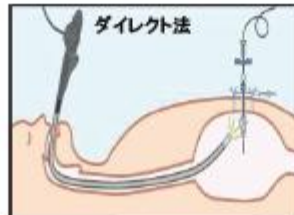
より安全に

手術時の感染を低減

咽頭部を通過すると、咽頭部の細菌を造設部位に持ってきて感染しやすい



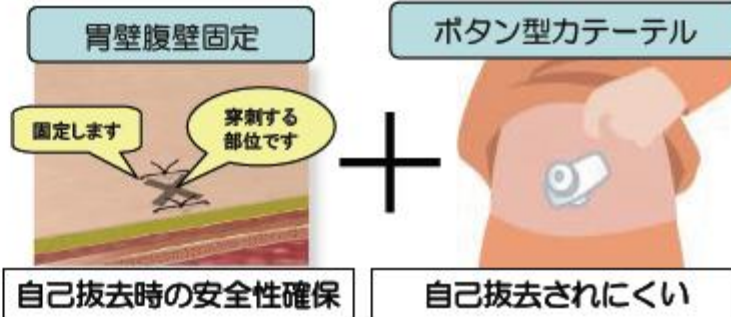
カテーテルを経皮的に留置するため、細菌が付着しにくい



より安全に

造設早期の自己抜去対策が可能

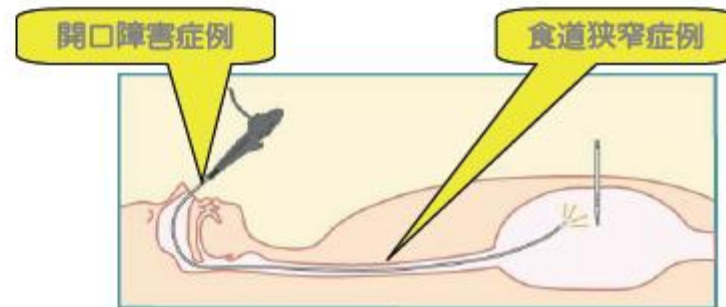
■胃壁腹壁固定+ボタン型カテーテル留置



より安全に

- ・内視鏡の挿入が1回で済むので苦痛が少ない
- ・経鼻内視鏡を用いてPEGが可能

■従来造設が困難だった症例でも、極細径の経鼻内視鏡を用いることでPEGが可能になる
(例：開口障害、食道狭窄症例)



内視鏡グループ 河本 和久